

畜試 ニュース

Technology News and
Information of Hokkaido
Animal Research Center



新緑の研究庁舎

場長挨拶

あたらしい畜産試験場が誕生して1年が経過しました。振り返ると昨年は、有珠山の噴火、口蹄疫の発生、牛乳問題など本道畜産は苦難のとりくみの連続でしたが、当场も、新施設への移転や新体制の立ち上げなど、無我夢中で過ごした1年でありました。2年目の今、当场は本道の畜産にとって「たよりになる試験場」、地域の皆さんに愛される「開かれた試験場」をめざし、いよいよパワー全開で活動を展開しなければならないと決意を固めています。

今日お届けする「畜試ニュース」は、旧新得畜試が発行していた「研究情報」の代わりに、試験場のホットなトピックスなどを中心とした新しい畜産試験場の情報誌です。この「畜試ニュース」を通じ、新しい当场の活動を知っていただき、畜産試験場を今まで以上に有効にご活用いただければ幸いです。研究成果などの詳しい情報は、ホームページに掲載いたします。どうか、「畜試ニュース」をご愛読ください。

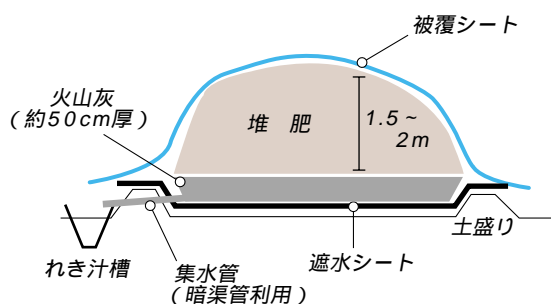
シート利用の簡易堆肥貯蔵施設の紹介

昨年から取り組んできた本施設は、火山灰土が全面フィルターの役割を果たし作業性を低下させることなく継続使用が可能であることが実証できました。
 本年は上部シートの軽量化、蒸散、低コスト化に取り組んでいます。

特徴

- ・自力施工可能な簡易・低コスト貯留施設。
- ・堆積の底部と上部をシートで覆うことで家畜排せつ物管理法に適合。
- ・底部シートの上に火山灰を敷設することにより、シート上での重機の作業を可能とし、れき汁排出を促進する。
- ・畜舎周辺、圃場等設置場所に制限がない。

構造図(イメージ)



留意点

- ・底部に敷設する火山灰の代替資材については検討中。
- ・堆積重の1割以上のれき汁が発生するのでれき汁槽の設置と定期的な汲み出しが必要。
- ・シートで密閉されているので、積極的な腐熟促進には不向き。

造成作業



道産初の優良黒毛和種雄牛「ふか はる なみ深晴波号」

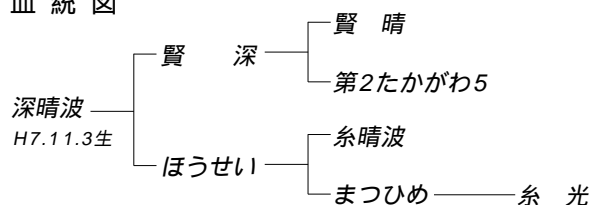
受精卵移植技術を利用した全兄弟検定による予備選抜を取り入れ、間接検定を行って優良な種雄牛を作出しました。能力の特徴は、枝肉重量が大きく、皮下脂肪が薄く、脂肪交雑が良いことで、血統を考慮すると特に道内の繁殖雌牛の更新に用いることができます。



間接検定の成績

枝肉重量	ロース芯積面	皮下脂肪	脂肪交雑
367kg	48cm ²	1.3cm	2.9

血統図



平成13年度試験成果の概要

	成 果 の 概 要
乳用雄肥育牛における肝臓瘍の発症要因解析-育成期の粗飼料増給による肝臓瘍の低減	飼料の混合給与方式を採る農家において、育成期の粗飼料増給で、肝臓瘍低減を実証
免疫クロマトグラフィ法による牛ロタウイルスの簡易検出法	免疫クロマトグラフィ法による牛ロタウイルス診断キットの有用性を確認
凍結初乳の連続給与と人工哺育による肉専用種子牛の下痢症対策	親牛からの隔離による環境の改善と凍結初乳の連続給与により子牛下痢症を低減
チモシー放牧地における馬の栄養摂取量	軽種馬の放牧時における栄養摂取量を明らかにした。これにより飼養標準を活用した飼料給与が可能になる
黒毛和種雄牛「深晴波号」	脂肪交雑と皮下脂肪厚が優れる質量兼備の黒毛和種雄牛「深晴波号」を作出した
黒毛和種の発育・哺育能力の育種価評価	黒毛和種の発育・哺育能力の育種価評価法を確立した。また、発育・哺育能力に対する近親交配の影響を明らかにした
ハマナスW1を用いたF1雌豚のデュロック系統との組合せ能力	系統交雑豚生産事業（ハイコープ豚事業）において、デュロック系統を「サクラ201」から「ゼンノーD01」に切り替えることにより肉豚の発育成績向上が期待できる
授乳母豚に対する高蛋白質飼料の給与効果	授乳期の母豚用飼料のタンパク質含量を、現行の基準値15%から17%へ高めることで子豚の発育が向上することを示した
エゾシカの飼料利用性	エゾシカの被害防止や有効活用など、保護管理の実施に際し必要な基礎データを得た

これらの成績の詳細は<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/center/kenkyuseika/ippan13.html>に掲載されている。

主催共催行事の紹介

1 オーストリッチセミナー

主催：日本オーストリッチ協議会北海道支部
共催：畜産試験場
日時：平成13年4月28日（土）
場所：札幌東武ホテル

2 家畜糞尿処理システムの実証と有効活用検討会

主催：畜産試験場
日時：平成13年6月5日（火）
場所：畜産試験場

3 肉用牛生産振興プロジェクト検討会

主催：北海道酪農畜産課、畜産試験場
日時：平成13年6月19日（月）～21日（水）
場所：畜産試験場

4 新十勝農業ビジョンセミナー

主催：畜産試験場
日時：平成13年6月27日（水）
場所：畜産試験場

5 畜産試験場公開デー

主催：畜産試験場
日時：平成13年9月20日（水）
場所：畜産試験場

座長講師等の参加報告

1 オーストリッチセミナー「オーストリッチ飼育の課題」

講師（大原主任研究員）
主催：日本オーストリッチ協議会北海道支部
共催：畜産試験場
日時：平成13年4月28日（土）
場所：札幌東武ホテル

2 第5回大動物臨床教育セミナー - 牛の繁殖をめぐる現状と課題 - 「牛の先端繁殖技術開発の現状とその応用」

講師（南橋受精卵移植科長）
主催：酪農学園大学
日時：平成13年5月26日（土）
場所：酪農学園大学中央館学生ホール

3 平成13年度北海道自然養鶏会セミナー 「鶏卵アレルギーについて」

講師（特用家畜科 野田研究職員）
主催：北海道自然養鶏会
日時：平成13年7月13日
場所：畜産試験場

4 シンポジウム「21世紀の北海道畜産・草地の展望」 「はばたく北海道畜産・その現状と未来」講師（田村場長） 「畜産の先端技術がひらく新たな展望」講師（南橋受精卵移植科長）

主催：北海道畜産学会、北海道家畜管理研究会、北海道草地研究会
日時：平成13年9月3日（月）
場所：北海道大学学術交流会館

5 肉用牛長期高等研修

講師（新名技術普及部長、酒井研究職員）
主催：全国肉用牛協会
日時：平成13年9月10日（月）～14日（金）
場所：畜産試験場

6 国産SPFポークセミナー パネルディスカッション「北海道の養豚」

講師（山崎専門研究員）
主催：日本SPF協会
日時：平成13年9月27日（木）
場所：共済ホール（札幌市）

研究アドバイザー 会議の開催

第1回研究アドバイザー会議を、平成13年4月26日畜産試験場で開催した。

今までは、普及センターなどから研究ニーズを集約していたが、本会議は生産者や関連機関から直接意見を聞き、畜試運営に生かすことを目的としている。

委員として、生産者から中井紀彦氏（肉牛生産者、指導農業士）、大平茂樹氏（肉牛生産者）、広瀬文彦氏（酪農生産者、指導農業士）、十勝農協連から西部 潤部長、帯広畜産大学から左 久教授を委嘱した。

今回の会議では、左 教授が座長となり、①会議の

運営、②重点研究課題、③研究ニーズ、④研究課題及び業務に関する助言を議題とした。

会議の中で、乳房炎対策、種雄牛「深春波」の現場検定、稲藁の利用、哺乳ロボット、糞尿処理利用、オーストリッチの展望などについて意見が交わされた。

試験業務の運営に関して、調査、要望から試験実施までの時間が掛かりすぎるのではないかと。環境関連の課題はスピードアップが必要だ。等々の指摘を受けた。

次回日程として、場内成績検討会の11月下旬を予定した。

畜試ニュース

平成13年9月21日
第1号

発行 北海道立畜産試験場
〒081-0038 北海道上川郡新得町字新得西5線39番地
TEL:01566-4-5321 FAX:01566-4-6151
<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/sintoku/index.html>